

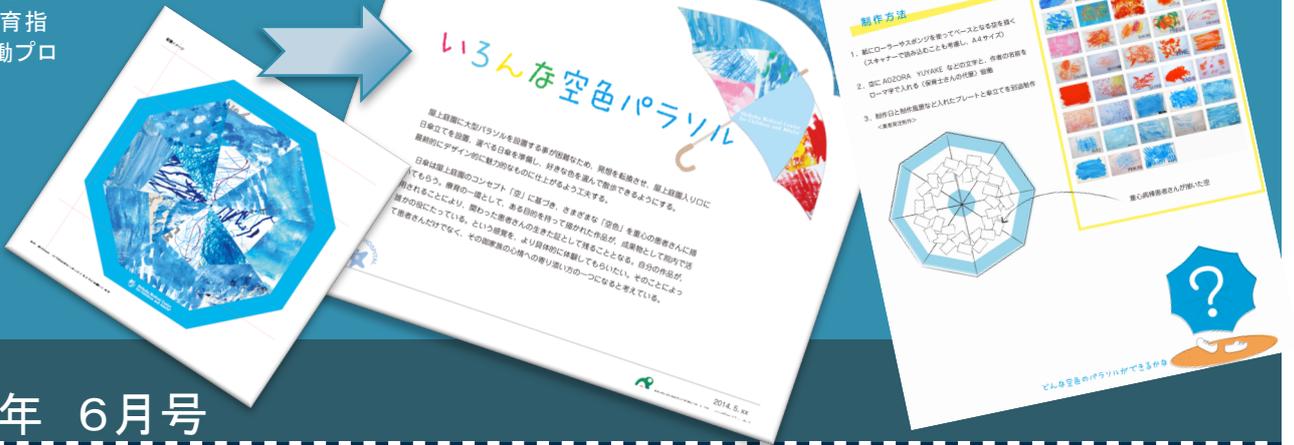


独立行政法人 国立病院機構

四国子どもとおとなの医療センター

アートプロジェクト

「いろんな空色パラソル」は療育指導部との協働プロジェクトです。



2014年 6月号

一院内の小さな声から

事務所の Mさんと打ち合わせしていた時のことです。パソコンの画面にとっても美しいバラの写真が次々に現れるので思わず見とれてしまいました。そのバラの花たちは Mさんが毎年大切に手入れして育てているそうです。その Mさんがご自身の入院体験についてお話をしてくださいました。「もう何十年も前の事です。仕事に没頭するあまり、体調管理がおろそかになり、結局手術を受けなければならなくなりました。当日、ベッドの上で、麻酔が効くのを待っている間、多くの人と同じように、私もとても不安だったのです。すると、マスクをした若い看護師さんが、ずっと手をにぎってくれて、『大丈夫ですよ。頑張りましょうね』と笑いかけてくれました。その手のぬくもりと、マスクと帽子の隙間からのぞく瞳の、優しさや頼もしさを今でもはっきりと覚えています。看護師という仕事の偉大さをその時改めて感じました。」と、まるでその時の情景が、今、目の前に広がっているかのように中空に目をやりました。Mさんはそれ以来、日常なのか意識的に「ゆとり」の時間を持つ事にしました。今、Mさんは病院の事務局で、患者さんやそこで働く医療スタッフのために、いきいきと全力で仕事に取り組まれています。その向こうにそんな素敵な過去の経験があったのだと知って、とても納得した午後でした。



いろんな空色プロジェクト

「屋上庭園に日よけが欲しい。」という要望は開院当初からありました。設計士さんに相談し、あずまやを建設する方向に進めましたが、構造上、建築基準法上のいくつかの問題がありストップしました。その後、大きなパラソルを設置してはどうか。と検討しましたが、管理上、安全性の問題で断念せざるをえませんでした。でも・・・これまで現場の皆さんの声を直接聴いてきたものとしては、このまま何もしないでやり過ごすことは心残りでした。何とかならないか。と、考えた末に思いついたのがこの「いろんな空色パラソル」プロジェクトでした。「いろんな空色パラソル」は当院オリジナルの日傘を、重心病棟に入所している皆さんと一緒に作るプロジェクトです。療育指導部の皆さんにコンセプトを説明し、現実を実施するための日程調整や手順などアドバイスをいただきながら計画しました。まず、重心病棟の入所者の皆さんに様々な色やタッチで「空」をイメージした絵を描いてもらいました。その際、入所者ひとり一人の状態を普段からよく知っている療育指導部の皆さんは、ある人には筆を。ある人にはサインペンをすすめながら、的確なサポートをして58枚の絵を完成させました。どれも唯一無二の力作です。出来上がった「空の絵」を写真に撮り、今度はデザイナーさんの力を借りながら傘の構造に合わせて絵を組み合わせてゆきました。デザイナーさんはこのプロジェクトの主旨を深く理解し、どの色の空もまわりと調和しつつ、一つ一つが生き生きと輝くような素晴らしいデザインを考えてくれました。これからそのデザインを布にプリントし、今度は傘を制作する工房の職人さんの力を借りながら、日傘を完成させてゆきます。完成まで、とても長い時間がかかりますが、それぞれの行程でコンセプトを共有し、想いが重なってゆく事で、始めに私が頭の中でイメージした日傘とは全く違う、命の宿った傘が育っています。療育指導部の皆さんは、「入所者の皆さんの作品が、こんな風に社会とつながってゆくことがとても嬉しいです。屋上庭園で沢山の患者さんがこの傘をさしてお散歩してくれるのですね！」と完成を楽しみにしてくださっています。

今月の一枚

作家:上村 亮太 草花

のんびりとした気持ちになるような
いろいろ思いをめぐらせられるような
そういう作品をつくりたいと思いました。